

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 寒中の里山歩き 松本県ヶ丘高校山岳部 記録：松田大

～霧訪山を塩尻から登り北小野に下山～

1月29日(日)生徒10名(2年男子4, 女子2, 1年男子3, 女子1) 引率2名、計12名という大人数で実施した。天候にも恵まれ、雪が柔らかくて少々苦労したが、有意義な山行でした。小生が縣陵山岳部の顧問になって5年目。過去4年間の冬期間は冬眠状態でどこの山にも登らなかった。しかし今年は様子が違う。新リーダーのS君が山に対して貪欲なくらい意欲的なのだ。他の部員もそれに引きずられ意欲的で、12月には3回も山行(日帰り1, 泊付き2)をした。1月の月例山行として、上高地での散策を考えたが模試と重なってしまい断念。それではせめて日帰りで雪の上を歩こうと提案し、目的山域を考えさせたところ、霧訪山を探してきた。それも通例の小野からの往復ではなくて、塩尻からの縦走のコースを。ネットで調べてみると、そのコースを歩いた記録もかなりあり、送電線の監視道をうまく使っているようなので、そんなにも大変ではなさそうだが、冬の記録は見当たらなかった。積雪もそう多いとは思われず、天候さえ良ければ問題なさそうと出かけることにした。以下に概要を記す。

8時松本駅集合、電車でみどり湖駅まで乗車。駅前で親に送ってもらった2名が合流し、生徒10名が揃う。もう一人の顧問T氏は登山口で合流予定。CLのS君を先頭に上西条の集落内をぞろぞろ進む。休日の朝ということもあり、集落内はひっそりしている。下西条集落奥の、山の神登山口は結構遠い。読図をしながら畑中を近道しようとしたが、道が雪に埋もれたせいかミスコースし、変なところで線路を越えたりした。たかだか4.5km程度の距離を結構苦労して漸く登山口に到着し、T氏と合流。雪上歩行の準備を整え出発したのは10時であった。しばらく林道を歩き、送電線の監視道から山道にとりつく。塩尻市は元々送電線が網の目のように張り巡らされているが、特にこの地域には集中している。監視道の入り口には鉄塔の番号が記された標識があるが、当然のことだが我々の持ち合わせの地図にはそんな番号なんて載っていない。10:10に監視道に取り付くも、積雪とヒノキの植林地の中でもあり、すぐにルートが不明となる。S君の発案で尾根筋を直登するが、これが結構大変、送電塔のある995ピークに着いたのは11時であった。ここから再び監視道を辿り1199ピークを目指す。監視道は途中からトラバースしている様子なので、尾根筋を辿る。積雪はせいぜい膝丈程度と多くないが、気温が低いため全く固まらずトレースにステップが形成されない。雪質は微粒のザラメで、まるで砂山を登るが如くに、後ろの者ほど苦労し、ほぼその場足踏み状態でなかなか前に進まない。トップのS君がステップを刻み、後に続く女子3名辺りまでは何とかなっているようだが、その後の1年生男子3名、2年の男子3名辺りになるとステップが崩れ地面がむき出し状態で滑るのだ。歩き方を指導するのだがなかなか飲み込めずに悪戦苦闘している。後ろの海千山千ロートル2名は余裕で付いていく。いつもは登りで引き離され死にそうな顔になるT氏も余裕のヨッチャンである。1199ピークに辿り着いたときには12時を大きく回っていた。この1199ピークは洞峰(MapSouceのマップで

は城ヶ山)と云うらしく、又山城跡でもあるのでかなりの広さの平坦であった。時間的な面もあり、此処で昼食大休止とした。昼食は具沢山のラーメンをつくってくれた。(炊事をするのも今回の山行の目的の一つ)風も殆ど無く、寒さもそれほど感じず、賑やかな炊飯であった。ここからの景色もそれなりで、塩尻の市街及び松本平の南半分



が俯瞰できた。13:20 休憩を終えて出発。ここからのルートはあまり大きなアップダウンもなく稜線を辿る道で、最初は真南に、大芝山の手前からはほぼ南西に霧訪山に向かっている。明るい雑木林の中を進むが、夏には草藪がひどくなるだろうからとても歩きたくないと思った。大芝山(1210)山頂は標識がなければ判らないただの通過点であった。積雪量もあまり変わらず、途中小休止を挟みながら快調に進む。霧訪山頂手前 10 分程にある、下西条からの直接コースとの分岐からははっきりとしたトレースがあり更に歩きやすくなった。15 時漸く山頂着。確かに頂上からの眺めは素晴らしい山で、日帰りの山としての人気の高さが理解できた。こんな時間なので誰も来ないだろうと思っていたら、西側から中年の単独行者が登ってきた。アイゼン・ピッケルのフル装備であったが、何所から登ったのかは聞かなかった。その人は頂上に留まることもなく下山していったが、入れ替わりに二人連れが登ってきた。こんな時間にと思い登山口(我々の下山口)からの所要時間を聞いたところ、1 時間弱とのこと、そんなら 16 時頃には下山できそうと 15 分ほど休憩。後は北小野の登山口に向かって降るだけ。結構急な下りであるが、雪があるのを幸いに滑らせながらハイピッチで降る。女子も遅れることなく S 君の後ろにピッタリ付いていく。登山道の右手(南側斜面)はキノコの止め山で、ロープが張り巡らされており、うるさいくらいに立ち入らないようにとの張り紙や看板がある。マア何所の里山も似たようなものだが、それも仕方ないだろう。15:43 下山、15:46 駐車場着、生徒一人の親が迎えに来ていたので、ここで今日のミーティングを行い一応の解散。16 時少し前に小野駅に向かって歩き出す。電車の時間まで 1 時間近くあると云うことで、駅近くの生徒の家に皆で呼ばれ歓待を受けた。それにしても男子生徒の食べっぷりには改めて感嘆した。実行動時間が 7 時間以上と、冬の里山歩きとしては結構ハードであったが、天候にも恵まれ、トラブルもなく有意義な山行で参加した生徒も満足していた。

振り返ってみると、駅から登山口まで、また下山口から駅まで、両方とも一切自動車のお世話にならずに徒歩だけの登山なんて何時以来だろう？。少なくとも此処 15 年以上は覚えがない。まして登山口と下山口が全く違う場合はおそらく初体験(40 年以上山登りをしているのに)であろう。考えてみると、駅で下車してからそのまま徒歩で登山口に行ける山ってどのくらいあるのだろうか？松本周辺の北アルプスの山々はおそらく皆無。加藤文太郎の時代じゃあるまいし、誰も鉄道駅から登山口まで歩かないだろうし、また駅までも同様。後立山も大町駅からでは無いなー。信濃常盤駅から餓鬼岳の登山口まで歩く物好きは・・・マーいないだろうね。鍬ノ峰も仏崎からの大町高コースなら可能性があるが、大町駅から仏崎の観音寺までは結構遠いしなー。他可能性としたら神城駅からの遠見尾根、白馬駅からの八方尾根だけど、どちらもスキー場のゴンドラが・・・?!。後は南神城駅からの黒沢尾根ぐらいしか無さそうですね。近間の里山には、田沢駅からの光城山、明科駅からの長峰山何てのがあるけど、両方とも山頂直下まで車が入るしなー？